



こんにちは 日本共産党府議会議員  
**さこ祐仁** 議会報告

2011年9月4日 NO125号

連絡場所  
日本共産党上京生活相談所  
813-2117

脱原発市民ウォーク  
バイバイ原発9・11

京都から原発をなくそう！

円山野外音楽堂に2600人が参加 / 9月10日

出発前には福島県からの避難者や各団体代表らが発言し、震災の起こった午後2時46分には震災でなくなった方の冥福を祈り、黙とうしました。

脱原発の一地点で賛同する70を超える団体・賛同者による実行委員会の主催で行われました。

京都市内で、9月11日には「危険な原発を捨て、再生可能エネルギーへ方向転換しよう」と円山公園から市役所前まで1600人がアピールしました。

京都仏教会理事長の有馬頼底氏のメッセージも紹介されました。

日本共産党の穀田恵二衆院議員が「野田首相は『原発再稼働を急ぐ』としているが福島事故の収束もできない中でどうして再稼働できるのか。みなさんと固くスクラムを組んで、原発ゼロに向けて歩んでいきたい」と訴えました。

呼びかけ人を代表して深尾正之元静岡大学教授が「日本は地震地帯に原発を持つ唯一の国。人間が運転する限り事故は避けられない。一刻も早く脱原発を国の方針にしよう」とあいさつ。

福島第一原発事故から約半年、京都から原発撤退の世論を示そうと、安斎育郎・立命館大学名誉教授ら京都在住の学者4氏が呼びかけた「9・10原発NO！京都府民大集会」が京都市東山区の円山野外音楽堂で開かれました。

「刷新・京都市政」  
はじめよう 京都から新しい日本



後援会旅行も取り组まれました  
9月4日（日）

大型台風12号の通過後でしたが、37人の参加者で、日本共産党創立89周年DVDを見たり淡路島・野島断層保存館を訪問し、学習しながら楽しむことができました。



中村氏は、東日本大震災と福島第一原発事故をうけて、私たちは国、京都市政のあり方を根本から問い直すことを迫られている。京都市はどのような役割を果たすべきなのか。そして、首長が果たすべき役割はいったい何なのか。これらの問題を根本から考えなければなりません。

京都市においては、この3年間に格差がさらに大きく拡大し、地域経済・雇用、福祉・医療など、様々な分野で市民生活が危機的状況となっており、命さえ奪いかねないような事態が生まれている。

現市政のもとで広がった格差と貧困の是正を実現するために、思いを同じくするすべてのみなさんに協力を呼びかけ、一緒に京都市政を刷新していきたいと訴えられました。

西陣織会館で 中村和雄さんと京都市政を考える懇談会が9月9日開かれました。